

皆様 お元気ですか ウクライナに関する状況は日々変化しておりますが、本日4月5日現在、残念ながら停戦やロシア軍の撤退という状況にはなっていません。開戦直後からウクライナの人々がドイツ各地に戦禍を逃れて滞在しています。在独の知人・親戚を頼りに自動車あるいは飛行機で自主避難できた方々のようです。車は新しいBMW5 だったりするので直接戦禍を逃れてきたというより、比較的余裕のある方々です。直接ウクライナと国境を接していないドイツにはひっ迫した状況で避難民が到着することは少ないですが、一日も早く平和が戻ってくることを切に願っています。

4月から一部の例外を除き、マスク着用義務が無くなりウクライナ戦争が無ければ、コロナも収束に向かう状況でサマータイムにも移行し、明るい春を楽しめるはずでした。まだまだ旅行を十分楽しめる状況ではありませんがスイスとオランダに出掛ける機会があり、久々にドイツ国外に出たので周辺国の状況をレポートしたいと思います。

スイス バーゼル

フランクフルトから南に向かいアウトバーンで約3時間、ドイツ国境に接している人口18万人の小都市、スイスではチューリッヒ、ジュネーブに次ぐ第三の都市となっています。スイスの文化の中心と言われ、1460年に設立された大学、合計40近い美術館があります。スイスではドイツ語を含む4か国語が公用語となっていますが、ドイツに近いバーゼルはドイツ語圏です。永世中立国のスイスですが、2008年以降国境検査を廃止するEU諸国のシェンゲン協定に加盟し、現在、ドイツとスイス間の移動においてパスポート検査などはありません。車で入国する際は、有料道路の料金所みたいな検問所を通過しますが、現在は無人で、日本で県境を超えるのとまったく同じです。標識の表示もドイツ語で変わりませんが、字体や白線の幅などが変わるのでスイスに入ったと認識できます。訪問は3月中旬でしたがドイツより一足早く、公共交通機関以外でのマスク着用義務は解除されていました。



バーゼル市役所



バーゼルで南北から東西に流れを変えるライン河



スイス料理の代表といえばフォンデュです。 チーズフォンデュ、オイルフォンデュ、そして今回オーダーしたのはフォンデュシノワーズ、中国式フォンデュという意味ですが、ブイヤベースのスープ鍋に柔らかなヒレ肉を漬けて1分くらいで出来上がりです。スイス式しゃぶしゃぶです。スイスワインとのコラボは最高です。

オランダ アムステルダム デンハーグ

フランクフルトから北西へ 450 km、およそ京都 - 東京間に相当します。アウトバーンで 4 時間半程度です。人口 80 万人、オランダ憲法上は首都ですが、国会・王宮などは 50 km 離れたデンハーグにあります。貿易港としてはロッテルダムが有名です。距離と位置関係ではちょうど大阪と京都、神戸のような感じです。滞在は 3 月末でしたが、コロナに関する制限はすべて撤廃されています。オランダの面積は 41550 平方km でこれはほぼ九州と同じ広さですが、最高地点はドイツ国境付近で海拔 322m、国土の大半が平地なので景色は広々としています。



左はフェルメールの真珠のイヤリングの少女、デンハーグの美術館にあります。フェルメールは生涯に 37 作品しか描かなかったそうです。1675 年に多額の負債をかかえたまま亡くなります。近年になり贋作が多く発見されたことなど、絵画鑑賞を機会にフェルメールのことを少し調べたりしました。

右はゴッホのひまわりです。ひまわりをモチーフにした作品は全部で世界に 7 枚あり、そのうちの一枚は東京の SOMPO 美術館にあります。58 億円で落札されたそうです。晩年精神を病んでいたゴッホが自分の耳を切り落としたり、拳銃で自身を撃ったことが原因で亡くなるなど天才画家の生涯も調べると大変興味深いです。普段絵画鑑賞などほとんどしない私ですが本物を鑑賞する機会ができて感動しました。

この春、日本でもフェルメールと 17 世紀のオランダ絵画展が開催されています。大阪でも展示されるようなので、皆さんも一度足を運ばれてはいかがでしょうか？新しい発見があると思います。



フェルメールを収蔵するマウリッツハウス美術館 17 基の風車が残る名所キンダーダイク



アムステルダムといえば運河

ゆったりと楽しむ運河クルーズは最高です